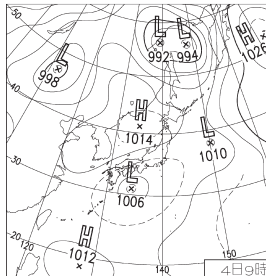


日々の天気図

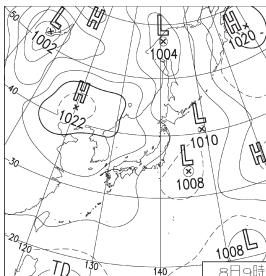
— No. 80

2008年9月

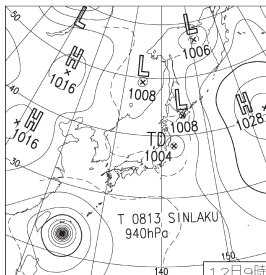
- ・2日～3日，三重県，岐阜県で局地的大雨，岐阜県揖斐川町は2日間で437mmの降水。
- ・13日，台風第13号により沖縄県与那国町祖納で765mm/日の大雨と最大瞬間風速62.8m/sを記録。
- ・18～19日，台風第13号の影響で奈良県上北山村78mm/24h。
(気象庁予報部予報課)



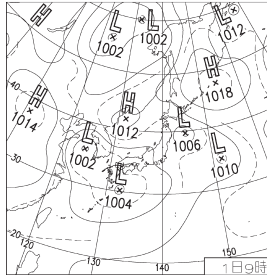
4日(木)北日本中心に概ね晴れ
北日本は日本海の高気圧に覆われ晴れ。東北～関東の太平洋側では北東風で曇り。関東以西では南から暖かく湿った空気が流入し所々にわか雨。その他は晴れ。



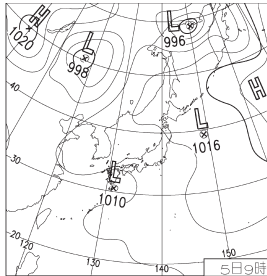
8日(月)天気は変わり目
中国東北区の高気圧が張り出し，全国的に概ね晴れ。上空の気圧の谷が通過した北～東日本の所々で雨や雷雨。九州や南西諸島も湿った空気や別の気圧の谷の影響で所々雨や雷雨。



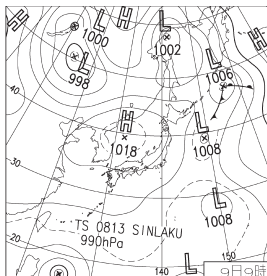
12日(金)沖縄，北日本で強い雨
北日本太平洋側は熱帯低気圧の北上接近で，石垣島では台風第13号の影響で強雨。北海道浜中町榊町40.5mm/1h，沖縄県石垣市川平の日雨量444.5mmは史上1位の記録更新。



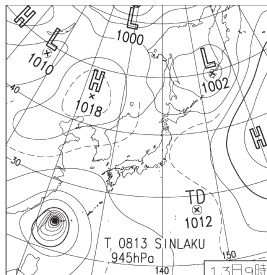
1日(月)月が変わるも不安定
日本付近には依然湿った空気が残り，日中晴れた所もあったが，午後～夜は局地的な雨や雷。北海道は低気圧接近による雨。「防災の日」，各地で防災訓練実施。



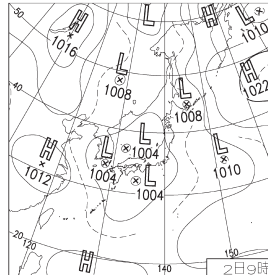
5日(金)近畿中心に不安定
本州は緩やかに高気圧に覆われているが，九州の南海上にある低気圧の影響で近畿を中心に大気の状態不安定による雷雨。大阪府堺市で93.5mm/1hの猛烈な雨を観測。



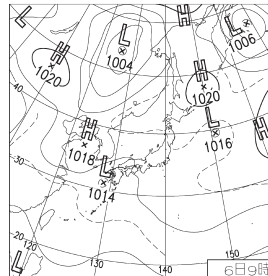
9日(火)初秋の天気
日本付近は日本海に中心を持つ勢力の強い移動性高気圧に覆われ，全国的に晴れ。東～西日本では，所により夏日。一方，台風第13号がフィリピン東海上を，ゆっくり北上。



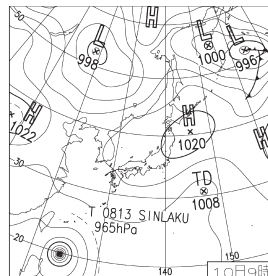
13日(土)先島諸島大荒れ
台風第13号は八重山諸島近海を引き続きゆっくり北西進。最大瞬間風速62.8m/sを観測した沖縄県与那国町祖納は終日雨。110mm/1h，日降水量765mmは観測史上1位の値を更新。



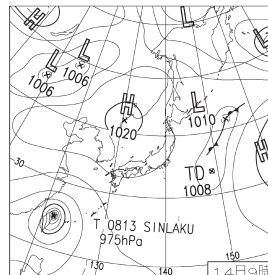
2日(火)東海で大雨
日本付近は気圧の谷となり，近畿，東海と東北部太平洋側は曇り。東海，北陸西部の所々で雷雨。その他は概ね晴れ。岐阜県揖斐川町小津90mm/1hの猛烈な雨。



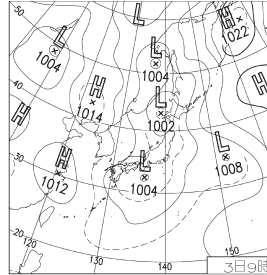
6日(土)広範囲で不安定
東～西日本は晴れた所も多いが，上空の寒気の影響で午後から不安定。山沿い中心に雷雨。新潟県長岡市で極値更新となる65.5mm/1h。北日本は最高気温が平年より5～7℃高い。



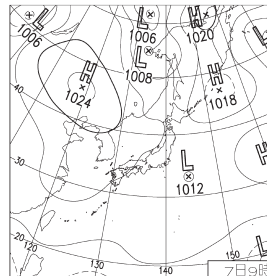
10日(水)概ね穏やか
日本の東海上に中心を持つ高気圧に広く覆われ，日本付近は概ね晴れ。しかし九州から南西諸島にかけて湿った空気の流入で曇りや雨。引き続き台風第13号がゆっくり北上。



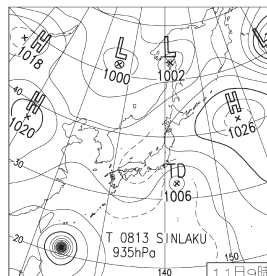
14日(日)中秋の名月
台風第13号は沖縄の南を北西に進み，台湾北部をかすめてやや衰弱し，東シナ海に抜けた。本州の日本海側や北日本では次第に晴れたが，そのほかでは雲の多い名月となった。



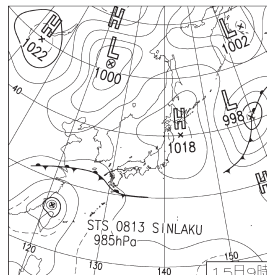
3日(水)東海・北陸で大雨
日本海の高気圧や南海上の低気圧の影響で北日本～近畿は曇りや雨。東海・北陸は局地的大雨となり，岐阜県揖斐川町小津は前日からの総雨量が437mmに達した。



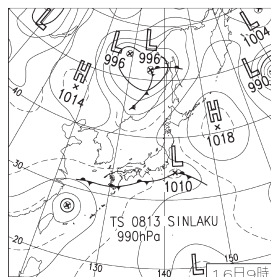
7日(日)引き続き不安定
関東～西日本の太平洋側は晴れの所が多いがその他は曇り。大気の状態は引き続き不安定で，全国的に所々で雷雲発達。島根県沖の島町西郷で79.5mm/1hの非常に激しい雨。



11日(木)九州，沖縄，関東で雨
日本付近は引き続き晴れの所が多いが，九州は湿った空気や寒気，関東は熱帯低気圧の接近により雨。非常に強い台風第13号の接近で先島は大しけ。北海道で震度5弱。

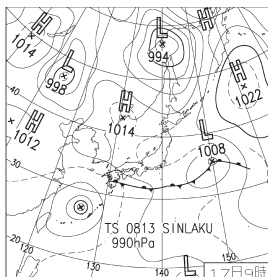


15日(月)停滞前線九州にのびる
台風第13号は台湾の北を東北東に進み，九州では東シナ海からのびる停滞前線の影響で激しい雨。鹿児島県枕崎市71.5mm/1h，沖縄県与那国町祖納86.5mm/1h。



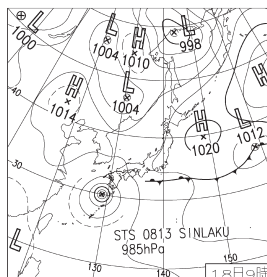
16日(火)本州は天気回復

前線は日本の南海上に南下し、北海道や本州は日本海側から晴れ間が広がる。台風の影響は先島諸島は一時雨足強まり、沖縄県竹富町大原で101.5 mm/1hの猛烈な雨。



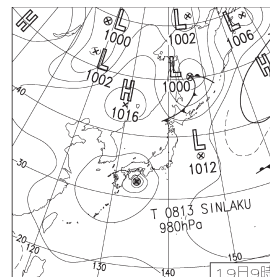
17日(水)沖縄本島で台風の影響

日本の南海上から九州南部に前線が停滞、台風近傍の沖縄本島は荒れた天気。九州～近畿は曇りや雨。東日本から北日本は概ね晴れ。沖縄県慶良間空港で53 mm/1h。



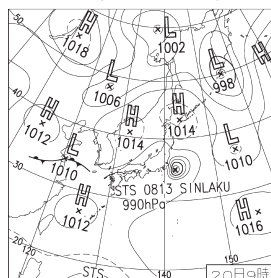
18日(木)台風第13号 北東進

台風第13号は東シナ海を北東進し、夜のはじめ頃に種子島付近を通過。九州南部は大荒れ。高気圧に覆われた北日本～北陸で晴れた他は曇りや雨。三重県尾鷲市で120.5 mm/1h。



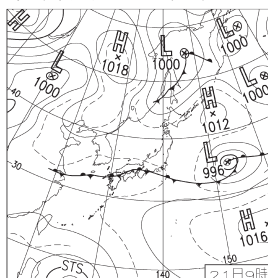
19日(金)台風は南岸を東北東進

台風第13号は日本の南岸を東北東進。九州～四国、本州南岸では短時間強雨を伴った大雨となり、この雨により鹿児島、宮崎両県では床上・床下の浸水、土砂災害などが発生。



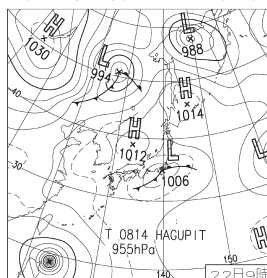
20日(土)台風 伊豆諸島を通過

台風第13号は勢力を弱めながら伊豆諸島の北部を通過。三宅島神着で最大瞬間風速47.2 m/sを02時42分に観測。伊豆大島元町では52 mm/1hの激しい雨。



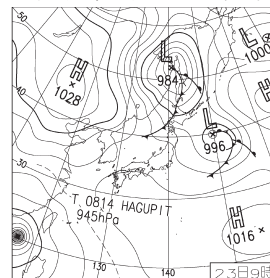
21日(日)西～東日本 不安定

前線に吹き込む暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、大気の状態不安定。九州～東北の広い範囲で激しい雨や雷雨。香川県多度津町、徳島県鳴門市付近で突風被害発生。



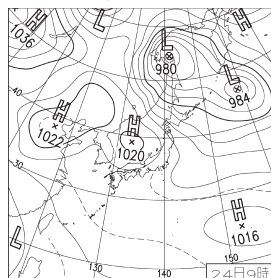
22日(月)関東など未明に雷雨

前線を伴った低気圧が関東の南岸をゆっくり東進。東北南部～東海では曇りや雨、天気回復遅れる。関東や東海の一部では未明に雷雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。



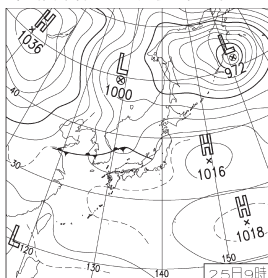
23日(火)秋分の日

寒冷前線が北日本を通過。北海道は雨から次第に晴れ。東北は曇りや雨。東～西日本は晴れたが、日本海側は夕方から次第に雨。湿った空気が入り九州～南西諸島は所々におわか雨。



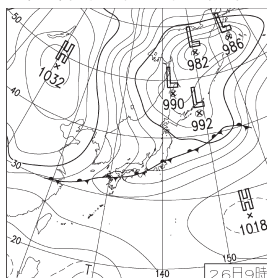
24日(水)北海道では冬の便り

日本付近は日本海に中心を持つ高気圧に覆われ、九州と北海道を除いて、概ね晴れ。北海道では最低気温が5℃未満の所があり、利尻山、暑寒別岳、旭岳の初冠雪が観測された。



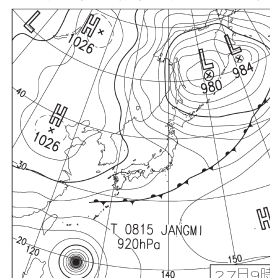
25日(木)この秋初めての冬日

日本海を東進する低気圧の影響で本州は雨または曇り。北日本には冷たい空気が入り、北海道釧路支庁標茶町で-1.5℃を観測。この秋初めての冬日となった。



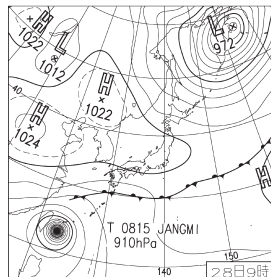
26日(金)季節を分ける前線

本州上を前線が南下、西～東日本の広い範囲で雨。前線の南側では蒸し暑い。前線通過後は北からの冷たい空気に覆われ気温下降。大分県杵築市で70 mm/1hの非常に激しい雨。



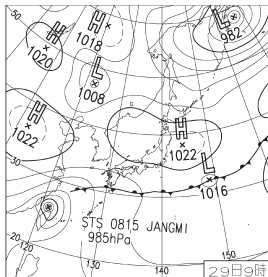
27日(土)冬の便り北陸まで南下

西高東低の気圧配置で、寒気に覆われた北陸から北日本の日本海側を中心にしぐれて雨や曇り。岩手山、月山、立山で平年より12～18日早く初冠雪が観測された。



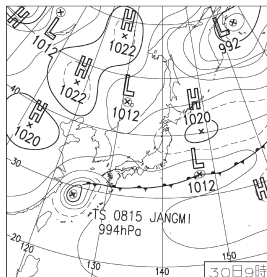
28日(日)台風 先島諸島に最接近

台風第15号は先島諸島近海を北西進し、周辺は暴風を伴う激しい雨。南海上の秋雨前線や寒気の影響で、曇りや雨となって全国的に気温が上がらず、最高気温は11月上旬並の所も。



29日(月)秋雨前線九州で活発化

本州の南海上に秋雨前線が停滞、台風第15号の北上に伴い、鹿児島県熊本郡南種子町上中で57 mm/1hの非常に激しい雨。南シナ海で台風第16号が発生し北西進。



30日(火)九州に台風第15号接近

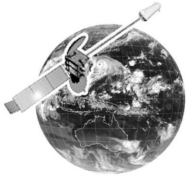
東シナ海から東にのびる秋雨前線により、西日本から東日本は雨または曇り。台風に近い九州南部では前線の活動が活発となり、鹿児島県では200 mm/24h前後の大雨。

日記文の修正について

気象庁は2008年7月24日の岩手県沿岸北部の地震の最大震度を6強から6弱に修正しました。これに関連して「天気」55巻9号755ページの日々の天気図の日記文を次のように修正いたします。

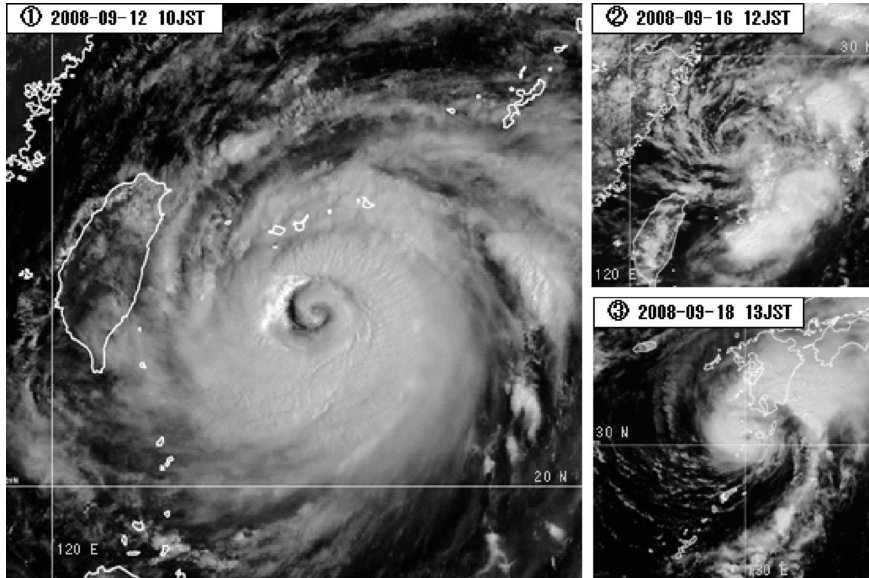
24日(木)東北地方で震度6弱

黄海～三陸沖に前線が停滞。北陸から北は曇りや東北・北陸中心に概ね曇り。未明に東北地方で地震、青森県や岩手県で震度6弱。



今月のひまわり画像—2008年9月

東シナ海で再発達した動きの遅い台風第13号



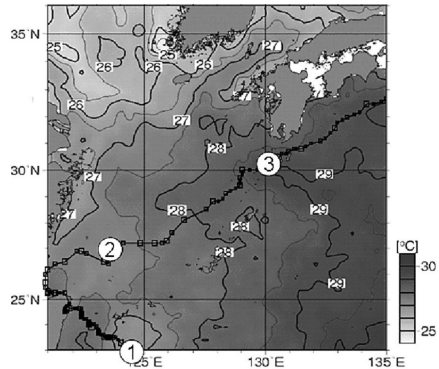
第1図 2008年9月12日(左), 16日(右上), 18日(右下)の可視画像(画像の時刻は12日が10時(日本時間), 16日が12時, 18日が13時).

9月9日3時(日本時間)に発生した台風第13号は、動きが遅く長寿命(台風期間12日6時間)であったうえ、九州に接近する直前に再発達したのが特徴であった。

第1図左は、先島諸島に接近中の台風第13号の可視画像である。中心には眼が形成され、中心に向かって雲バンドが1周以上もきれいに渦巻いている。台風は眼の構造がしっかりしているほど、また、中心に巻き込む雲バンドが長いほど勢力が強い。実際、この頃の中心気圧は940 hPaで、最も中心気圧の低い時期(935 hPa)に相当している。

この後、台風は台湾に一時上陸した。第1図右上は、台湾への上陸によって勢力を弱めた台風が、東シナ海を東に進んでいる時の可視画像である。画像中の白く輝いて見えるところが発達した対流雲である。台風周辺の発達した対流雲は、中心の南東側に偏在し、中心付近には雲頂高度の低い下層雲が存在するのみとなっている。この雲パターンを示す時は、台風の勢力がすでに衰えていることが多い。しかしながら、この台風は、海水温が28度前後と比較的高い東シナ海(第2図)をゆっくりと移動したため、海面から潜熱のエネルギーを十分に受け取ることができ、再発達した。

第1図右下は、再発達後の台風が九州に接近している時の可視画像である。台風の中心付近では、発達した対流雲が再び組織化され、屋久島の西には眼に近い



第2図 9月18日の九州・沖縄海域の海面水温と台風第13号の経路(図中の丸数字は第1図に対応)。

構造が形成されている。これは、台風の勢力が強くなっていることを示している。

台風は、この後、九州から関東にかけての南岸を約2日かけて東北東に進み、21日9時には、日本の東で温帯低気圧となった。

(気象庁予報部予報課航空予報室 大野滋規)